

○学校統合に関する検討事項について〔中央・清流・境野・梅田地域協議会〕

1 今後の進め方

【令和5年度～】

検討委員会：中学校区ごとに、小学校や中学校の学校規模及び学校配置の適正化の方向性を協議する。

⇒ 中央中、清流中、境野中及び梅田中学校区の4つの中学校区で地域協議会を編成し、小学校や中学校の学校統合を検討する。



【令和7年度～】

地域協議会：検討委員会で決定した方向性に基づき、複数の中学校区が合同で、小学校や中学校の統合についての方向性を協議する。

- ① 学校の組合せ
- ② 統合時期
- ③ 統合後に使用する校舎
- ④ 通学手段
- ⑤ その他必要な事項



【令和8年度以降】

統合準備委員会：地域協議会で決定した事項に基づき、小学校や中学校の統合に向けた具体的な準備を行う。[過去の事例：2年間程度]

- ① 学校の基本的な事項に関すること
- ② 施設整備に関すること
- ③ 通学区域に関すること
- ④ 通学路・通学手段に関すること
- ⑤ その他必要な事項

※ 統合準備委員会の開始年度は、地域協議会の進捗状況により変わります。

2 桐生市立小中学校適正規模・適正配置基本方針の各種基準

(1) 望ましい学校規模（1校当たりの学級数）

○小学校：12 学級以上（1 学年 2 学級以上）

○中学校：9 学級以上（1 学年 3 学級以上）

(2) 望ましい学級規模（1 学級当たりの児童生徒数）

○小学校：第 1・2 学年 30 人以下

第 3～6 学年 35 人以下

○中学校：第 1～3 学年 35 人以下

(3) 望ましい学校配置（通学時間）

○小学校・中学校：通学手段を問わず、30 分以内

3 児童生徒数・学級数の現状

(1) 小学校の児童数・学級数（令和 7 年 5 月 1 日時点）

学校名	1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年		特別支援学級	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
東	20	1	22	1	29	1	32	1	24	1	29	1	11	2
西	21	1	30	1	28	1	35	1	32	1	42	2	4	2
南	25	1	21	1	31	1	34	1	36	2	32	1	7	2
北	19	1	18	1	20	1	16	1	25	1	19	1	10	2
境野	40	2	49	2	48	2	39	2	49	2	63	2	21	3
梅田南	9	1	8	1	13	1	14	1	16	1	12	1	6	3
菱	21	1	27	1	22	1	29	1	28	1	27	1	6	2
合 計	155	8	175	8	191	8	199	8	210	9	224	9	65	16

※資料 16「桐生市立学校児童生徒数・学級数一覧」から抜粋

(2) 小学校適正化の緊急度

緊急度	学校規模の状況	該当校名
A	既に単学級が生じており、複式学級が生じる見込み	梅田南小 [令和 11 年度～] 菱 小 [令和 15 年度～] 西 小 [令和 17 年度～] 東 小 [令和 25 年度～] 北 小 [令和 27 年度～] 南 小 [令和 30 年度～]
B	既に単学級が生じている	—
C	単学級が生じる見込み	境 野 小 [令和 11 年度～]
D	望ましい学校規模（12 学級以上）を確保できる見込み	—

※資料 17「児童生徒数・学級数の見込み [令和 7 年度～令和 32 年度、学年別]」参照

（３）中学校の生徒数・学級数（令和７年５月１日時点）

学校名	１ 年		２ 年		３ 年		特別支援学級	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
中央	58	2	67	2	80	3	6	3
清流	79	3	85	3	83	3	9	2
境野	34	1	58	2	49	2	9	2
梅田	15	1	17	1	13	1	2	1
合 計	186	7	227	8	225	9	26	8

※資料 16 「桐生市立学校児童生徒数・学級数一覧」から抜粋

（４）中学校適正化の緊急度

緊急度	学校規模の状況	該当校名
A	既に単学級が生じており、複式学級が生じる見込み	梅田中〔令和 17 年度～〕
B	既に単学級が生じている	境野中〔※令和 10 年度～14 年度の間、単学級解消〕
C	単学級が生じる見込み	中央中〔令和 17 年度～〕 清流中〔令和 19 年度～〕
D	望ましい学校規模ではないが、1 学年 2 学級以上を確保できる見込み	—
E	望ましい学校規模（9 学級以上）を確保できる見込み	—

※資料 17 「児童生徒数・学級数の見込み〔令和 7 年度～令和 32 年度、学年別〕」参照

（５）学校規模の課題

「単学級（1 学年に 1 クラスのみの状態）」や「複式学級（複数の学年が 1 クラスで構成されている状態）」の場合、クラス替えができず、人間関係が固定化してしまうことや、児童生徒が多様な意見に触れ、集団の中で切磋琢磨することが難しくなる。

こうした状況を改善し、児童生徒にとって、より良い教育環境を実現するため、基本方針にある望ましい学校規模を確保する必要がある。

4 学校適正配置の方向性

(1) 各中学校区検討委員会の第4回会議結果

- ・ 望ましい学校規模を確保するため、中央中学校区、清流中学校区、境野中学校区及び梅田中学校区の4つの中学校区で地域協議会を編成し、小学校及び中学校の学校統合を検討する。

(2) 学校統合に伴う課題

- ・ [小学校] 7校が1回で統合する場合、学校規模が大きすぎる。
- ・ [中学校] 4校が1回で統合する場合、学校規模が大きすぎる。
- ・ [共通] 通学距離や通学時間が長くなるため、スクールバス等の通学手段を確保する必要がある。
- ・ [その他] 放課後児童クラブのクラブ室を考慮する必要がある。

(3) 学校統合に関する検討事項

- ① 学校の組合せ
- ② 統合時期
- ③ 統合後に使用する校舎
- ④ 通学手段
- ⑤ その他必要な事項

(4) 配慮すべき事項

- ① 児童生徒への配慮
 - ・ 児童や生徒が、学校統合を何度も経験しないようにする必要がある。
 - ・ 統合後の小学校の児童が、異なる中学校に進学する、いわゆる「分散進学」を回避する必要がある。
- ② 通学環境への配慮
 - ・ 統合後の通学区域については、統合前の各学校の通学区域を一つの通学区域にすることを基本とするが、他の学校区との境界付近については、柔軟に対応する必要がある。
- ③ 統合後に使用する校舎
 - ・ 統合後に使用する校舎については、既存の校舎を使用することを基本とし、状況に応じて改修工事などの施設整備を行う必要がある。

《校舎の選定要件》

- ・ 施設の状況（統合後の学級数を収容できること）
- ・ 通学の利便性（スクールバスの利用者数が少ないこと）
- ・ 当該地区の児童生徒数の見込み（推計の児童生徒数が多いこと）

(5) 対応案

児童生徒数・学級数の見込みのほか、中学校区検討委員会の協議結果、学校統合に伴う課題、配慮すべき事項等を考慮すると、次のような対応方法が考えられる。

【小学校】

ケース① [1回目：令和10年度]・東小、北小、菱小、梅田南小の4校が統合
・西小、南小、境野小の3校が統合
[2回目：令和17年度]・統合校の2校が統合

年度 学校名	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)	R13 (2031)	R14 (2032)	R15 (2033)	R16 (2034)	R17 (2035)	R18 (2036)	R19 (2037)	R20 (2038)
東小				▶ 統合 【場所】東小							▶ 統合 【場所】東小			
北小														
菱小														
梅田南小														
西小				▶ 統合 【場所】境野小										
南小														
境野小														

《組合せ・統合時期・統合後に使用する校舎》

[1回目の統合]

○東小、北小、菱小、梅田南小 【場所】 東小

- ・ 梅田南小の複式学級を回避し、東小、北小、菱小、梅田南小の単学級を改善できる。
 - ・ 令和 14 年度まで望ましい学校規模（12 学級以上）を確保できる。ただし、令和 15 年度から令和 16 年度までの 2 年間は、単学級が生じる見込みである。
- 【場所】・施設の状況：**既存の校舎を使用し、早急に対応することができる。

○西小、南小、境野小 【場所】 境野小

- ・西小、南小の単学級を改善し、境野小の単学級を回避できる。
 - ・令和26年度まで望ましい学校規模（12学級以上）を確保できる。
- 【場所】・施設の状況：既存の校舎を使用し、早急に対応することができる。
- ・当該地区の児童数の見込み：推計の児童数が多い。ただし、スクールバスの利用者の割合も高くなる見込みであり、通学の利便性に課題がある。

[2回目の統合]

○ 〔東、北、菱、梅田南〕小、〔西、南、境野〕小、 【場所】東小

- ・ [東、北、菱、梅田南] 小の単学級を改善できる。
 - ・ 令和 32 年度まで望ましい学校規模（12 学級以上）を確保できる。
- 【場所】・ 施設の状況：既存の校舎を使用し、対応することができる。
- ・ 通学の利便性：スクールバスの利用者の割合が低い見込み。

ケース③ [1回目：令和10年度]・東小、西小、北小、菱小、梅田南小の5校が統合
 ・南小、境野小の2校が統合
 [2回目：令和20年度]・統合校の2校が統合

年度 学校名	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)	R13 (2031)	R14 (2032)	R15 (2033)	R16 (2034)	R17 (2035)	R18 (2036)	R19 (2037)	R20 (2038)	R21 (2039)	R22 (2040)
東小				▶ 統合 【場所】東小										▶ 統合 【場所】東小		
北小																
菱小																
梅田南小																
西小																
南小				▶ 統合 【場所】境野小												
境野小																

《組合せ・統合時期・統合後に使用する校舎》

[1回目の統合]

○東小、西小、北小、菱小、梅田南小 【場所】東小

- ・ 梅田南小の複式学級を回避し、東小、西小、北小、菱小、梅田南小の単学級を改善できる。
 - ・ 令和19年度まで望ましい学校規模（12学級以上）を確保できる。
- なお、統合後、西小の児童は、「分散進学」を回避するため、中央中ではなく、清流中に進学することになる。

【場所】・施設の状況：既存の校舎を使用し、早急に対応することができる。

○南小、境野小 【場所】境野小

- ・ 南小の単学級を改善し、境野小の単学級を回避できる。
- ・ 令和14年度から令和17年度までの4年間は、一時的に単学級が生じる見込みであるが、令和22年度まで望ましい学校規模（12学級以上）を確保できる。

【場所】・施設の状況：既存の校舎を使用し、早急に対応することができる。

- ・ 通学の利便性：スクールバスの利用者の割合が低い見込み。

[2回目の統合]

○[東、西、北、菱、梅田南]小、[南、境野]小 【場所】東小

- ・ [東、西、北、菱、梅田南]小、[南、境野]小の単学級を回避できる。
- ・ 令和32年度まで望ましい学校規模（12学級以上）を確保できる。

【場所】・施設の状況：既存の校舎を使用し、対応することができる。

- ・ 通学の利便性：スクールバスの利用者の割合が低い見込み。

【中学校】

【小学校】 ケース1 2で統合した場合

ケース1 [1回目：令和10年度]・中央中、境野中の2校が統合
・清流中、梅田中の2校が統合

[2回目：令和18年度]・統合校の2校が統合

年度 学校名	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)	R13 (2031)	R14 (2032)	R15 (2033)	R16 (2034)	R17 (2035)	R18 (2036)	R19 (2037)	R20 (2038)
中央中				▶ 統合【場所】中央中								▶ 統合 【場所】中央中		
境野中														
清流中				▶ 統合【場所】清流中										
梅田中														

《組合せ・統合時期・統合後に使用する校舎》

[1回目の統合]

○中央中、境野中 【場所】中央中

- ・ 境野中の単学級を改善し、中央中の単学級を回避できる。
 - ・ 令和16年度まで望ましい学校規模（9学級以上）を確保できる。
なお、令和17年度の1年間は、望ましい学校規模（9学級以上）ではないが、1学年2学級以上を確保できる見込みである。
- 【場所】・施設の状況：既存の校舎を使用し、早急に対応することができる。

○清流中、梅田中 【場所】清流中

- ・ 梅田中の単学級を改善し、清流中の単学級を回避できる。
 - ・ 令和12年度まで望ましい学校規模（9学級以上）を確保できる。
なお、令和13年度から令和17年度までの5年間は、望ましい学校規模（9学級以上）ではないが、1学年2学級以上を確保できる見込みである。
- 【場所】・施設の状況：既存の校舎を使用し、早急に対応することができる。

[2回目の統合]

○[中央、境野]中、[清流、梅田]中 【場所】中央中

- ・ 令和24年度まで望ましい学校規模（9学級以上）を確保することができる。
なお、令和25年度から令和32年度までの8年間は、望ましい学校規模（9学級以上）ではないが、1学年2学級以上を確保できる見込みである。
- 【場所】・施設の状況：既存の校舎を使用し、対応することができる。

【中学校】

【小学校】ケース3で統合した場合

ケース2 [1回目：令和10年度]・中央中（南小学校区のみ）、境野中の2校が統合
・清流中（西小学校区を含む）、梅田中の2校が統合

[2回目：令和18年度]・統合校の2校が統合

年度 学校名	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)	R13 (2031)	R14 (2032)	R15 (2033)	R16 (2034)	R17 (2035)	R18 (2036)	R19 (2037)	R20 (2038)
中央中				▶ 統合【場所】中央中								▶ 統合 【場所】中央中		
境野中														
清流中				▶ 統合【場所】清流中										
梅田中														

《組合せ・統合時期・統合後に使用する校舎》

[1回目の統合]

○中央中（南小学校区のみ）、境野中 【場所】中央中

- ・中央中（南小学校区のみ）、境野中の単学級を改善できる。
- ・令和12年度まで望ましい学校規模（9学級以上）を確保できる。

なお、令和13年度から令和17年度までの5年間は、望ましい学校規模（9学級以上）ではないが、1学年2学級以上を確保できる見込みである。

【場所】・施設の状況：既存の校舎を使用し、早急に対応することができる。

○清流中（西小学校区を含む）、梅田中 【場所】清流中

- ・梅田中の単学級を改善できる。
- ・令和14年度まで望ましい学校規模（9学級以上）を確保できる。

なお、令和15年度から令和17年度の3年間は、望ましい学校規模（9学級以上）ではないが、1学年2学級以上を確保できる見込みである。

【場所】・施設の状況：既存の校舎を使用し、早急に対応することができる。ただし、多目的教室は確保できない見込み。

[2回目の統合]

○[中央、境野]中、[清流、梅田]中 【場所】中央中

- ・令和24年度まで望ましい学校規模（9学級以上）を確保することができる。

なお、令和25年度から令和32年度までの8年間は、望ましい学校規模（9学級以上）ではないが、1学年2学級以上を確保できる見込みである。

【場所】・施設の状況：既存の校舎を使用し、対応することができる。

5 参考

(1) スクールバスの必要台数の見込み

《算出条件》

- ・ 通学距離が2キロメートルを超える場合にスクールバスの利用を想定
- ・ スクールバスは32人乗りを想定
- ・ 統合年度の利用者数を推計

※令和7年5月1日時点の住民基本台帳における未就学児童数及び居住地から算出。

※令和14年度以降の利用者数は、令和7年度から令和13年度までの利用者割合の平均及び資料17「児童生徒数・学級数の見込み〔令和7年度～令和32年度、学年別〕」から算出。

【小学校】1回目の統合

ケース¹ [1回目：令和10年度]・東小、北小、菱小、梅田南小の4校が統合
・ 西小、南小、境野小の3校が統合

学校名		東小	北小	梅田南小	菱小	計	スクールバス 必要台数
項目							
使用校舎 東小	児童数	144	108	52	117	421	3
	利用者数	0	33	52	4	89	
	利用者割合	0.0%	30.6%	100.0%	3.4%	21.1%	
使用校舎 北小	児童数	144	108	52	117	421	3
	利用者数	5	5	50	30	90	
	利用者割合	3.5%	4.6%	96.2%	25.6%	21.4%	
使用校舎 梅田南小	児童数	144	108	52	117	421	13
	利用者数	144	104	24	117	389	
	利用者割合	100%	96.3%	46.2%	100.0%	92.4%	
使用校舎 菱小	児童数	144	108	52	117	421	2
	利用者数	2	7	51	3	63	
	利用者割合	1.4%	6.5%	98.1%	2.6%	15.0%	

学校名		西小	南小	境野小	計	スクールバス 必要台数
項目						
使用校舎 西小	児童数	141	165	261	567	10
	利用者数	3	37	261	301	
	利用者割合	2.1%	22.4%	100.0%	53.1%	
使用校舎 南小	児童数	141	165	261	567	7
	利用者数	58	0	155	213	
	利用者割合	41.1%	0.0%	59.4%	37.6%	
使用校舎 境野小	児童数	141	165	261	567	9
	利用者数	141	115	2	258	
	利用者割合	100.0%	69.7%	0.8%	45.5%	

ケース2

[1回目：令和10年度]・東小、北小、菱小、梅田南小の4校が統合

- ・西小、南小の2校が統合

学校名 項目		東小	北小	梅田南小	菱小	計	スクールバス 必要台数
使用校舎 東小	児童数	144	108	52	117	421	3
	利用者数	0	33	52	4	89	
	利用者割合	0.0%	30.6%	100.0%	3.4%	21.1%	
使用校舎 北小	児童数	144	108	52	117	421	3
	利用者数	5	5	50	30	90	
	利用者割合	3.5%	4.6%	96.2%	25.6%	21.4%	
使用校舎 梅田南小	児童数	144	108	52	117	421	13
	利用者数	144	104	24	117	389	
	利用者割合	100.0%	96.3%	46.2%	100.0%	92.4%	
使用校舎 菱小	児童数	144	108	52	117	421	2
	利用者数	2	7	51	3	63	
	利用者割合	1.4%	6.5%	98.1%	2.6%	15.0%	

学校名 項目		西小	南小	計	スクールバス 必要台数
使用校舎 西小	児童数	141	165	306	2
	利用者数	3	37	40	
	利用者割合	2.1%	22.4%	13.1%	
使用校舎 南小	児童数	141	165	306	2
	利用者数	58	0	58	
	利用者割合	41.1%	0.0%	19.0%	

ケース3 [1回目：令和10年度]・東小、西小、北小、菱小、梅田南小の5校が統合
・南小、境野小の2校が統合

学校名		東小	西小	北小	梅田南小	菱小	計	スクールバス 必要台数
項目	児童数	144	141	108	52	117	562	4
	利用者数	0	10	33	52	4	99	
	利用者割合	0.0%	7.1%	30.6%	100.0%	3.4%	17.6%	
使用校舎 西小	児童数	144	141	108	52	117	562	4
	利用者数	2	3	23	52	48	128	
	利用者割合	1.4%	2.1%	21.3%	100.0%	41.0%	22.8%	
使用校舎 北小	児童数	144	141	108	52	117	562	4
	利用者数	5	10	5	50	30	100	
	利用者割合	3.5%	7.1%	4.6%	96.2%	25.6%	17.8%	
使用校舎 梅田南小	児童数	144	141	108	52	117	562	17
	利用者数	144	141	104	24	117	530	
	利用者割合	100.0%	100.0%	96.3%	46.2%	100.0%	94.3%	
使用校舎 菱小	児童数	144	141	108	52	117	562	5
	利用者数	2	80	7	51	3	143	
	利用者割合	1.4%	56.7%	6.5%	98.1%	2.6%	25.4%	

学校名		南小	境野小	計	スクールバス 必要台数
項目	児童数	165	261	426	5
	利用者数	0	155	155	
	利用者割合	0.0%	59.4%	36.4%	
使用校舎 境野小	児童数	165	261	426	4
	利用者数	115	2	117	
	利用者割合	69.7%	0.8%	27.5%	

【小学校】2 回目の統合

ケース 1 ・ 2 [2 回目：令和 17 年度]・統合校の 2 校が統合

学校名 項目		東小	西小	南小	北小	境野小	梅田南小	菱小	計	スクールバス 必要台数
使用校舎 東小	児童数	80	57	81	62	157	20	45	502	7
	利用者数	0	4	1	19	152	20	2	198	
	利用者割合	0.0%	7.0%	1.2%	30.6%	96.8%	100.0%	4.4%	39.4%	
使用校舎 西小	児童数	80	57	81	62	157	20	45	502	8
	利用者数	1	1	18	13	157	20	18	228	
	利用者割合	1.3%	1.8%	22.2%	21.0%	100.0%	100.0%	40.0%	45.4%	
使用校舎 南小	児童数	80	57	81	62	157	20	45	502	7
	利用者数	1	23	0	47	94	20	25	210	
	利用者割合	1.3%	40.4%	0.0%	75.8%	59.9%	100.0%	55.6%	41.8%	
使用校舎 北小	児童数	80	57	81	62	157	20	45	502	8
	利用者数	3	3	43	3	157	19	10	238	
	利用者割合	3.8%	5.3%	53.1%	4.8%	100.0%	95.0%	22.2%	47.4%	
使用校舎 境野小	児童数	80	57	81	62	157	20	45	502	10
	利用者数	78	57	58	61	1	20	43	318	
	利用者割合	97.5%	100.0%	71.6%	98.4%	0.6%	100.0%	95.6%	63.3%	
使用校舎 梅田南小	児童数	80	57	81	62	157	20	45	502	16
	利用者数	80	57	81	62	157	9	45	491	
	利用者割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	45.0%	100.0%	97.8%	
使用校舎 菱小	児童数	80	57	81	62	157	20	45	502	9
	利用者数	1	33	67	5	156	20	1	283	
	利用者割合	1.3%	57.9%	82.7%	8.1%	99.4%	100.0%	2.2%	56.4%	

ケース 3 [2 回目：令和 20 年度]・統合校の 2 校が統合

学校名 項目		東小	西小	南小	北小	境野小	梅田南小	菱小	計	スクールバス 必要台数
使用校舎 東小	児童数	64	41	74	59	149	12	34	433	6
	利用者数	0	3	1	18	143	12	1	178	
	利用者割合	0.0%	7.3%	1.4%	30.5%	96.0%	100.0%	2.9%	41.1%	
使用校舎 西小	児童数	64	41	74	59	149	12	34	433	7
	利用者数	1	1	16	13	149	12	14	206	
	利用者割合	1.6%	2.4%	21.6%	22.0%	100.0%	100.0%	41.2%	47.6%	
使用校舎 南小	児童数	64	41	74	59	149	12	34	433	6
	利用者数	1	17	0	45	89	12	19	183	
	利用者割合	1.6%	41.5%	0.0%	76.3%	59.7%	100.0%	55.9%	42.3%	
使用校舎 北小	児童数	64	41	74	59	149	12	34	433	7
	利用者数	2	2	39	3	149	11	8	214	
	利用者割合	3.1%	4.9%	52.7%	5.1%	100.0%	91.7%	23.5%	49.4%	
使用校舎 境野小	児童数	64	41	74	59	149	12	34	433	9
	利用者数	62	41	53	58	1	12	33	260	
	利用者割合	96.9%	100.0%	71.6%	98.3%	0.7%	100.0%	97.1%	60.0%	
使用校舎 梅田南小	児童数	64	41	74	59	149	12	34	433	14
	利用者数	64	41	74	59	149	5	34	426	
	利用者割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	41.7%	100.0%	98.4%	
使用校舎 菱小	児童数	64	41	74	59	149	12	34	433	8
	利用者数	1	24	61	5	148	12	1	252	
	利用者割合	1.6%	58.5%	82.4%	8.5%	99.3%	100.0%	2.9%	58.2%	

（２）放課後児童クラブの現状

① クラブの設置状況

小学校	クラブ名	場所
東小	若葉クラブ	東小学校内
西小	かがやき放課後第 1 クラブ	西小学校内
	かがやき放課後第 2 クラブ	
南小	南小学校第 1 放課後児童クラブ	南小学校敷地内
	南小学校第 2 放課後児童クラブ	
北小	北小っ子放課後クラブ	北小学校内
境野小	四ツ葉第 1 クラブ	境野小学校内
	四ツ葉第 2 クラブ	
梅田南小	清流クラブ	梅田南小学校内
菱小	菱の実クラブ	菱小学校内

② 利用者数（令和 6 年度）

項目 \ 学校名	東小	西小	南小	北小	境野小	梅田南小	菱小	計
児童数（特支含む）	174	202	190	131	308	90	168	1,263
R 6月平均利用者数	53	48	65	35	72	20	64	357
利用者割合	30%	24%	34%	27%	23%	22%	38%	28%
現在のクラブ室数	2	2	2	2	3	1	2	

※ 児童数は、令和 6 年 5 月 1 日時点の人数。

※ 放課後児童クラブ利用者数は、令和 6 年度の月平均利用者数。